

## 買い物弱者対策 ～住民による食料品店運営～

実施主体：NPO法人上美生、上美生ほしぞらプラン会議（芽室町）

### ①地域の概要

【人口】536人（※総務省：「小さな拠点」実態調査）

- ・ 芽室町上美生地区は、町の市街地から約15km離れており、少子高齢化が進行している。
- ・ 同地区の中心部には、スーパーのほか、小中学校や郵便局、駐在所が集まっている

### ②取組の目的

- ・ 上美生地区唯一のスーパー「Aコープ」の閉店による地域の衰退に危機感を持った住民有志が、店舗存続のため、NPO法人を設立。
- ・ 開店準備資金として約500万円の寄附金を集め、スーパー閉店の約1ヶ月後に、店舗跡を活用し、「みんなのお店KAMIBI」を開店。地域コミュニティの拠点化を目指す。

### ③取組内容

#### ○みんなのお店KAMIBI

<検討経緯>

- ・ 上美生地区協議会とJA上美生運営協力が地域の関係団体に呼び掛け、「上美生のお店を考える会」を発足。先進地視察や住民意見交換会等を開催し、検討した結果、NPO法人を設立し、店舗を運営することを決定。
- ・ 平成30年3月、住民有志による「NPO法人上美生」を設立。

<みんなのお店KAMIBI>（平成30年5月開店）

- ・ 商品棚や床清掃などは、NPO法人の理事が中心となって実施
- ・ 生鮮野菜売り場には、地元農家の直販所「ほしぞら市場」を設置
- ・ 弁当配達やイベントへの食材供給、葬儀とりまとめ、ゆうパック取次、ガソリンスタンド運営なども行う
- ・ 旧事務スペースは、地域住民にフリースペースとして開放



#### ○上美生ほしぞらプラン会議

平成27年に発足した地域課題の解決に向けた社会実験や取組を実施する住民有志組織。高齢者が「みんなのお店KAMIBI」で買い物できるよう、送迎実験も実施。

※ このような住民組織があり、住民同士が意見交換等をしやすい環境であったことが、NPO法人設立の合意形成ができた一つの要因と考えられる。

<上美生ほしぞらプラン会議のその他の活動内容>

- ・ 地域課題や目指すべき姿を把握するため、住民アンケートを実施
- ・ 上美生の未来を考える地域づくりフォーラムの開催
- ・ 使われていない教員住宅を地域活動の拠点「ほしぞらハウス」として、地域のサロンや寺子屋に活用
- ・ 希望者制による高齢者宅の除雪サービスを実施 など

### ④実績・効果

- ・ 住民の声を反映し、営業時間を7:00～19:00までとし、利便性を向上させた。（従前は9:00～17:00）
- ・ 店舗内の旧事務所スペースに、フリースペースを開設。日中は買い物客が集まり、夕方は地域の子供たちが学習する場になっており、寺子屋なども開催している。
- ・ 営業時間を変更し、利便性を向上させたため、ガソリンスタンドの利用は、旧店舗と比べて5割増となっている。
- ・ 地域住民からは、市街地に買い物に行くより便利で有難いとの声があがっている。

### ⑤苦労・課題

【今後の課題】

- ・ 地域で店を支える運営体制の構築  
⇒ 人員確保と人件費の捻出
- ・ 店舗運営の活性化と売上の増加  
⇒ 買い支えを進める取組
- ・ 店舗及び敷地の買取  
⇒ 3年後の買取費用の捻出

### ⑥活用した制度等

- ・ 農村集落活性化支援事業（農林水産省）（平成27年度～平成28年度）  
（※アドバイザーとして、札幌国際大学 吉岡宏高 教授を招聘）
- ・ めむろ人まち育て助成金、協働のまちづくり活動支援事業（芽室町）

### 本取組のお問い合わせ先

NPO法人上美生  
電話：0155-66-2014